

ベニバナインゲン綿腐病と土壤微生物多様性・活性値の関係について

片倉チッカリン株式会社 筑波総合研究所
茨城県農業総合センター農業研究所
有限会社ディージーシー総合研究所

茨城県常陸大宮地区における、ベニバナインゲンの連作障害の原因となる綿腐病と土壤微生物多様性・活性値の関係について、片倉チッカリン株式会社 筑波総合研究所、茨城県農業総合センター農業研究所、有限会社ディージーシー総合研究所にて共同試験を行った。

【試験区概要】

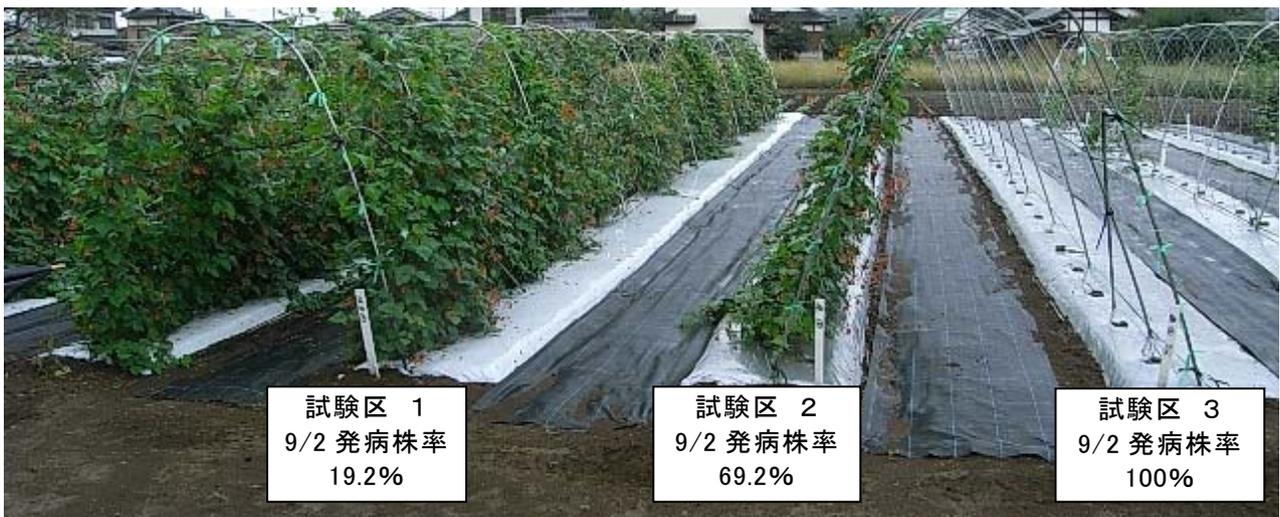
○常陸大宮 Y 氏圃場(綿腐病試験)

播種:H22.7.14 定植:H22.7.26 ビオライザー追加処理:H22.8.25

- <試験区1> : やまのいも輪作跡地+高畦+白黒 W マルチ+紙ポット移植
+ビオライザー畝施用 500g/m² 生育期かん注 500 倍液 150ml/株
- <試験区2> : ベニバナインゲン連作+高畦+シルバーマルチ+紙ポット移植
+ビオライザー畝施用 500g/m² 生育期かん注 500 倍液 150ml/株
- <試験区3> : ベニバナインゲン連作+高畦+シルバーマルチ+紙ポット移植

【試験結果】

	試験区 1	試験区 2	試験区 3
発病株率(%)	19.2	69.2	100
土壤微生物多様性・活性値	1,069,672	382,835	444,960



結果より、綿腐病を発生させない土壤の土壤微生物多様性・活性値は高いことが明らかになった。したがって、ビオライザーは輪作やマルチなどの併用で、土壤微生物の多様性・活性に効果があると期待できる。